

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.39

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Buster Williams 【バスター・ウィリアムス】

Profile

1942年4月17日生まれ。米国ニュージャージー州カムデン出身。本名は Charles Anthony Williams, Jr.。バスター(Buster) はニックネーム。ベーンストだった父親の影響で幼い頃からジャズに親しむ。59年からジミー・ヘース(ts)のバンドで演奏し、翌60年ハイスクール卒業直後にジーン・アモンズ(ts)とソニー・ステイット(as)等と共演し始める。その後、地元カムデンに戻り、フィラデルフィアの「Combs College of Music」で作曲・和音・理論を学ぶ。62年にベティ・カーター(vo)、サラ・ヴォーン(vo)のバンドで活動。64年にナンシー・ウィルソン(vo)との活動を機にロサンゼルスに移住。この間、ナンシー・ウィルソンをはじめ、ジャズ・クルセイダーズ(計5枚のアルバム)、マイルス・デイヴィス(tp)のレコーディングに参加。その他、ケニー・ドーハム(tp)との共演やスタジオやテレビ、映画の仕事もこなす。68年にニューヨークに移り、アート・ブレイキー(ds)やハービー・マン(f)等と共演する他、ハービー・ハンコック・セクステットでも活躍。75年に初リーダー・アルバム『ピナクル』発表。80年代以降も自己のグループをはじめ、ハンク・ジョーンズ(p)、フレディ・ハーバード(tp)、ロン・カーター(b)、ウイントン・マルサリス(tp)等と共演。72歳を迎えた現在も精力的にライブ活動を行っている。



独特の音色と大胆不敵なプレイが魅力のいぶし銀のベースマン

同業のベーンストたちからも高く評価されるバスター。意外に知られていないが、映画やTV関連の仕事も数多くこなしている。1969年のアメリカ西部劇映画『マッケンナの黄金』の音楽ではクインシー・ジョーンズと共演。1990年代には『ツイン・ピークス』のサントラ。1995年のスパイク・リー監督映画『クロッカーズ』の音楽。2004年のスティーブン・スピルバーグ監督映画『ターミナル』では自分自身として出演も果たしており、テレビでは人気番組『トゥナイト・ショー』でブランフォード・マルサリス率いるハウス・バンドのメンバーとして出演。その他、コカ・コーラ、バドワイザー、オールドスパイス、ケミカル・バンク等のTVCMでも演奏している。1980年にはハンク・ジョーンズ(p)とトニー・ウィリアムス(ds)との“ザ・グレイト・ジャズ・トリオ”名義のアルバム『ラヴ・フォー・セール』がグラミー賞にノミネートされた。

BW's Great Albums

ここに紹介した作品以外にも多くのリーダー・アルバムを発表しており、サイドマンとしてもロン・カーターやハービー・ハンコック等のアルバムでいぶし銀の存在感を放っている。



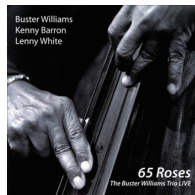
ピナクル
バスター・ウィリアムス
(Muse : MR-5080 [Import LP])

バスターの強靱なベースを前面に押し出した記念すべき初リーダー・アルバム。骨太なスピリチュアル・ジャズ・サウンドが充満。1975年録音。



サムシング・モア
バスター・ウィリアムス
(In And Out : IOR-7004 [Import CD])

ハービー・ハンコック、ウエイン・ショーター、アル・フォスターに大野俊三(tp)も参加したバスターの6枚目のリーダー・アルバム。1989年録音。



65 ローゼス
バスター・ウィリアムス
(BluePort : BPJ-016 [Import CD])

ケニー・パロン(p)、レニー・ホワイト(ds)とのトリオによる作品。2006年のカリフォルニアでのライブ音源を収録。現時点でバスターの最新作。



ラヴ・フォー・セール
ザ・グレイト・ジャズ・トリオ
(East Wind : EW-8046)

ハンク・ジョーンズ(p)とトニー・ウィリアムス(ds)との“ザ・グレイト・ジャズ・トリオ”名義のアルバム。グラミー賞ノミネート作品。1976年録音。